がん診療あさひ

3号
2018年10月発行

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～

化学療法センターメンバー

化学療法センターのご紹介

化学療法センターは入院せずに外来で抗癌剤治療、自己免疫疾患への生物学的製剤の治療を点滴で行う部署です。投薬量は厳密な設定にする為、医師・薬剤師・看護師が体重確認、血液検査などのチェックの上で点滴の投与を行っています。治療後ご自宅での副作用に心配がある場合は電話相談も行っています。また医療連携福祉相談室、スキンケア相談室、緩和ケアチーム、歯口科、管理栄養士、リハビリテーション科との連携も取りながら、患者さんがより安全に安心して治療が受けられるように心がけています。外来治療中でご心配なことがありましたらお申し出下さい。

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。

地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

〒289-2511 千葉県旭市イの1326　TEL.0479-63-8111(代)　FAX.0479-63-8580
www.hospital.asahi.chiba.jp

がん患者さんの症状に合わせた食事のポイント

その1

がんの治療中には、食欲不振や口内炎、味覚異常など様々な症状が現れることがあり、食事の量が少なくなると栄養状態も低下してしまいます。それを予防するための各症状に合わせた食事のポイントをご紹介します。

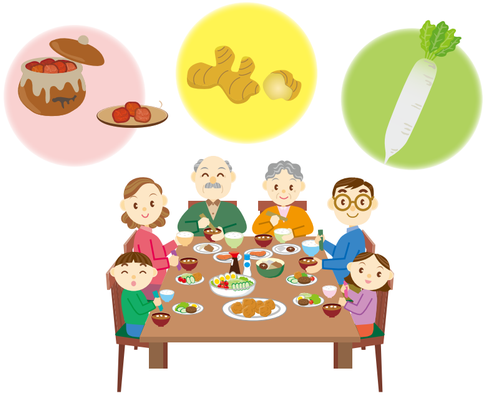
食欲不振の時

- たんぱく質が豊富な卵や乳製品、豆腐など少量でも栄養価の高い食品を食べましょう。
- 濃い味や酸味、香辛料の香りなどが食欲につながることもあります。
  （梅干しなどの酸味やショウガの香りは唾液の分泌を促し、生の大根は消化を促す作用があります）
- 量は少なめに、彩りを意識した盛り付けをしましょう。

口内炎がある時

- 食事はなめらかな薄味で、冷たいものの方が口腔内の痛みを軽減させます。
- 刺激物や味の濃いもの、熱いもの、硬いものは避けましょう。

体調により食事がとりにくい時には、市販の栄養補助食品などを上手に利用するのもおススメです。



緩和ケアチームについて

「がん」が発症し、当院にて「検査」を受け、「がん」と診断される際から、「不安」や「心配事」などが出てきます。

また、手術や化学療法、放射線治療など、がん治療を受けている際にも、治療や「がん」に伴う「痛み」などの身体的な苦痛が加わることがあります。

「痛み」の程度によっては、「医療用麻薬」などの提供を適切に受けることによって、苦痛が和らぎ、「治療」を受けやすくなります。

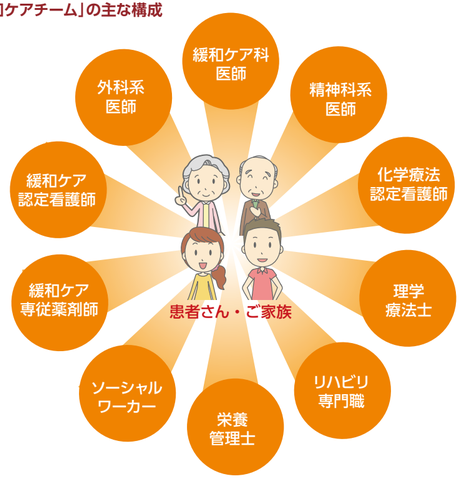
身体的な苦痛や精神・心理的な苦痛の他にも、療養費や生活費などの経済的な苦痛、仕事ができなくなったことによる社会的な苦痛、自分の生存が危うくなったときに生じるスピリチュアルな苦痛があり、そのことに対処するために、当院には「緩和ケアチーム」があります。

「緩和ケアチーム」には、緩和ケア科医師、精神科医師、外科系医師、心理療法士、緩和ケア認定看護師、化学療法認定看護師、緩和ケア専従薬剤師、理学療法士、栄養士、ソーシャルワーカーなどのメンバーが加わっています。

「緩和ケアチーム」は、「がん」と「診断」される時期、「治療」を受けている時期から皆さんに関わることによって、苦痛をできるだけ緩和することを目指しています。

心配なこと、痛みなどの苦痛について相談したいことがありましたら、「緩和ケアチーム」に、ご相談ください。お待ちしています。

「緩和ケアチーム」の主な構成



がん相談支援センター

「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん患者相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士・看護師が相談に応じます。必要に応じて、医師・薬剤師・管理栄養士等と連絡を取って、お話を伺います。

〈相談例〉

- がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
- どのように治療に取り組んだらよいでしょうか。
- がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか？
- しごとを続けるのは無理でしょうか？
- 介護が必要になったらどうしますか？

など

「紹介患者センター」では、セカンドオピニオンについての相談に応じることができます。（医療機関検索・相談方法・費用、予約について）

がん相談支援センター　2号館1階 医療連携福祉相談室

時間／月～金（祝日を除く）
8:30～17:15

相談は無料です。

※なるべく予約して頂くことをお勧めしています。

※当センターで医師と直接お話をすることはできません。社会福祉士・看護師がお話を伺い、担当医にご相談内容をお繋ぎすることは可能です。

がん患者サロン 乳がん患者サロン 開催について

がん患者サロン

毎月第3月曜日
14:00～16:00
参加費　300円
事前申し込みは不要です。

乳がん患者サロン

毎月第3木曜日
14:00～16:00
参加費　無料
事前申し込みは不要です。

化学療法施行時における体重管理について

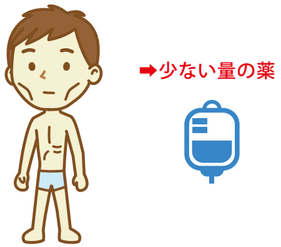
医療安全管理推進室 副室長　外科 小池 大助

こんにちは。このコラムでは化学療法施行時に重要である体重管理についてお話させていただきます。

化学療法とは、いわゆる抗がん剤治療のことです。抗がん剤は、「1日3回、1回1錠」などと処方される薬と違い、体重や体表面積により投与する薬の量を細かく調整しています。癌を攻撃する薬は多く投与された方が良いですが、多すぎると副作用（最近は有害事象といいます）が起こります。そのため体重に合わせて抗がん剤を適切な量に調節しています。また、抗がん剤の治療は数か月から数年に渡ることがあります。その間、体調により体重が増えたり減ったりします。薬の量を調節するため旭中央病院では、抗がん剤投与前に毎回体重を確認しています。多少の手間がかかりますが、治療効果を最大にするために必要とご理解いただきたいと思います。

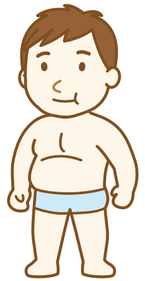
最後に、チーム医療の考えについてお話します。最も有効な治療を行うには、患者さん自身を治療チームの一員と考える必要があります。抗がん剤治療では、体重のみでなく、有害事象の具合によっても薬の量を調整しています。診察時には問診されなくても「手のしびれがあります」「下痢が続いています」「体重が減って(増えて)いますが薬の量の調節は必要でしょうか」等を申し出て頂くことが良質な医療の実践に繋がります。患者さん自身の理解と協力をお願いしたいと思います。

もともと小柄な方
体重が減った方



➡少ない量の薬

もともと大柄な方
体重が増えた方



➡多い量の薬

抗がん剤では元々の身長体重に合わせて薬剤量を決めます。
経過中の体重の増減にも合わせて薬剤量を調節しています。
診察時には体重の測定をお願いします。

当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。がんを完全に治すための治療法として、ほとんどの場合手術療法が選択されます。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これをなるべく軽くするためにいろいろな手術が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、外科・内科・放射線科が一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、外科医・麻酔医・看護師・薬剤師・理学療法士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

（外科　永井）

緩和ケアについて

これまでの「ターミナル（がんの終末期）ケア」のことではありません。

- 「緩和ケア」とは、がんと診断されたときから、患者さんが感じる体と心の苦痛をやわらげるケアのことで、より早期の段階から必要とされるものです。
- 「緩和ケア」により、患者さんの生活の質を向上させ、生きる力を支えます。そして、死が訪れるまで、患者さんが自分らしく生きていけるよう支えていきます。
- 「緩和ケア」では、患者さんの苦痛を取り除く治療（鎮痛薬などの薬の投与）や心のケアが、専門スタッフ達（緩和ケアチーム：別記）によって行われます。
- 「緩和ケア」は、患者さんを支えるご家族の心のケア（治療中から死別後まで）も行います。

（緩和ケア科）

患者さん

放射線治療について

治療の特徴

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

- 外照射
  - 一般的な外照射（ほぼ全身が対象で乳房温存療法、食道癌、骨転移など）
  - 高精度治療　IMRT 強度変調放射線治療（前立腺癌など）、定位放射線治療（脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など）
- 腔内照射（子宮癌）
- 内用療法　ゾーフィゴ注（骨転移）、ゼヴァリン注（悪性リンパ腫）

（放射線治療科　太田）

化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の３本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように**有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、QOL（生活の質）が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され全科の治療がここに集約されています。**化学療法センターの病床数は40床（リクライニング８、ベッド32）あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師1名を含む看護師７名と医師１名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

（化学療法科　中村）